老年心理学

単位数	履修方法	配当年次
4	R or SR	1年以上

科目コード	FD2517	担当教員	吉川　悠貴

■科目の内容

これまで老年期（高齢期）は一般的に否定的なイメージでとらえられてきました。しかし人間を生涯発達する存在として考えると，老年期は発達の最終段階にあたる時期となります。人間は加齢に伴ってさまざまな身体的変化や心理学的な変化を示しますが，それが実際にはどのように起こってくるのかを系統的に学習していくのがこの科目のねらいです。具体的には，老化の基本的考え方や知能に代表される精神機能の変化，老年期のパーソナリティと適応，人間関係，認知症の問題などについて，心理学的な理解を深めていくことがこの科目の大きな目的です。

■到達目標

1）高齢期のとらえ方や高齢者を取り巻く現状について，基本的な事項を説明できる。
2）高齢期に生じる変化や高齢者の心理について，実生活に照らして解説できる。
3）認知症に関する基礎的知識を得たうえで，心理を理解した支援の要点を述べることができる。
4）高齢者の心理を理解するための要点について，自分の意見を述べることができる。

■教科書

1）加藤伸司編『介護福祉士養成テキストブック10　発達と老化の理解』ミネルヴァ書房，2010年
2）本間昭編『介護福祉士養成テキストブック11　認知症の理解　第２版』ミネルヴァ書房，2013年

（最近の教科書変更時期）2013年４月より，上記２）の教科書が変更になりました。

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	人間の成長と発達①発達のさまざまな理論（教科書１）第１章）	「発達」とは何か，どのようにとらえられるものかについて学ぶ。また人間の発達を理解するための基礎的な理論にはどのようなものがあるかを理解する。 **キーワード**：発達，相互作用説，生涯発達心理学，発達段階，発達課題	とかく誕生から成人までの時期がイメージされやすい「発達」という概念について，「生涯発達」という視点を踏まえて基本的なとらえ方や基礎的な理論を理解しましょう。自身や近親者などのこれまでの歴史を振り返りながら考えると理解の助けになります。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
2	人間の成長と発達②乳幼児期から青年期まで（教科書１）第１章）	乳幼児期，児童期，青年期のそれぞれについて，人生のなかでどのような位置を占めているかを理解する。またそれぞれの時期において，どのような発達の様相がみられるかを理解する。 **キーワード**：乳幼児期，児童期，青年期，自我	各時期において生じる様々な変化について，概要を理解しましょう。特に，心理社会的な側面から，かつ自身の経験を踏まえてとらえてみましょう。
3	人間の成長と発達②成人期から高齢期まで（教科書１）第１章）	乳幼児期，児童期，青年期のそれぞれについて，人生のなかでどのような位置を占めているかを理解する。またそれぞれの時期において，どのような発達の様相がみられるかを理解する。 **キーワード**：成人期，高齢期，受容，適応	特に高齢期については，成人期までを含めた，人間の一生の中での位置づけを考えてみましょう。また，心理的な適応の過程や影響要因について具体的に考えてみましょう。
4	加齢に伴うからだの変化の特徴①老化と加齢に伴う生理的変化（教科書１）第２章）	「加齢」と「老化」の違い，及び老化に関する主要な仮説について理解する。その上で，加齢に伴って生じる生理的変化の概要を学ぶ。 **キーワード**：加齢，老化，生理的変化	生涯発達の観点を持った上で，「老化」がどのようにとらえられるか考えてみましょう。また，加齢に伴って生じやすい変化を概要として総体的に理解しましょう。
5	加齢に伴うからだの変化の特徴②身体に生じやすい変化（教科書１）第２章	身体の部位や器官（骨・関節，筋力，循環器，呼吸器，内分泌系，消化器，泌尿器，神経系，感覚器）ごとに，具体的な加齢変化や生じやすい疾患，生活への影響について理解する。 **キーワード**：加齢変化，疾患，生活への影響	加齢に伴って身体に生じやすくなる変化について，なるべく具体的に理解していきましょう。また，個々の生活行為から高齢期全体の過ごし方まで含めて，生活（人生）への影響についても考えましょう。
6	加齢に伴うこころの変化の特徴①感覚・知覚，注意・反応（教科書１）第３章）	感覚・知覚，及び注意・反応における加齢変化の実際を学ぶ。またそれらの変化が高齢期の生活にどのような影響を与えうるか理解する。 **キーワード**：感覚，知覚，注意，反応	人間の生活行為を支える感覚・知覚，及び注意・反応について，具体的にどのような変化が生じ，日常生活に影響を与えうるかについて考えましょう。高齢期を的確に理解し，必要な配慮を行うにはどうしたらよいか，という視点を持つとよいでしょう。
7	加齢に伴うこころの変化の特徴②記憶，知能（教科書１）第３章）	記憶機能，及び知的機能の概要について学ぶ。その上で，これらの機能の加齢変化がどのように生じているか理解する。 **キーワード**：記憶，知能	まず，記憶機能や知的機能そのものについて概要を理解しましょう。その上で，加齢変化の実際を，従来の通説やイメージと比較しながら考えていきましょう。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
8	加齢に伴うこころの変化の特徴③感情，パーソナリティ，適応（教科書１）第３章）	高齢期における感情や人格（パーソナリティ）の変化について概要を理解する。また，こころの健康・心理的適応の観点から，変化や影響を与える要因について学ぶ。 **キーワード**：感情，性格，人格（パーソナリティ），葛藤，適応	高齢期におけるこころの変化について，個人差を踏まえて理解しましょう。また，適応（心理的な意味での健康）に影響を与える要因について，具体的な内容と影響のしかたを考えましょう。
9	高齢期の発達と成熟①生涯発達と高齢者をとりまく環境（教科書１）第４章）	生涯発達の視点による高齢期の理解について，より詳しく学ぶ。また高齢期に生じる社会的な関係の変化やそれらに関係する喪失体験等について学ぶ。 **キーワード**：生涯発達，役割，関係，喪失体験	高齢期に生じやすい家庭・職業生活，あるいは地域生活における変化，殊に対人関係やその中での役割の変化について考えていきましょう。またそれらが高齢者の心理にどのように影響しうるか，具体的に想定してみましょう。
10	高齢期の発達と成熟②高齢期における適応（教科書１）第１・４章）	老いの受容，サクセスフルエイジング，生活史，セクシャリティなどの観点から，高齢期の適応について総合的に学ぶ。 **キーワード**：老性自覚，サクセスフルエイジング，プロダクティビティ，生活史，適応	「発達と老化の理解」のまとめとして，高齢期の適応について総合的に理解するよう努めましょう。適応が困難な場合やセクシャリティなど，普段触れにくい視点を含めて考えられるとよいでしょう。
11	認知症の基礎知識①（教科書２）第１章）	認知症，及び認知症の人を取り巻く現状について，概要を理解する。また，認知症の定義や原因疾患，症状理解の枠組み等の基本的な事項について学ぶ。 **キーワード**：認知症，定義，原因疾患，症状	わが国における高齢者ケア・認知症ケアの歴史を踏まえて，現状を理解していきましょう。また，認知症とはどのような病気であるか，自分のこれまでのイメージと照らし合わせながら整理してみましょう。
12	認知症の基礎知識②（教科書２）第１章	認知症の病態・症状について詳細を理解する。また発症機序，危険因子，治療について概要を学ぶ。 **キーワード**：病態，発症機序，危険因子（予防因子），軽度認知障害	発症機序や危険因子（予防因子）等について理解した上で，予防や治療として現在どのような対応が行われているか考えていきましょう。薬物療法以外の治療的対応，発症以前の予防という視点も含められるとよいでしょう。
13	認知症ケアの基本（教科書２）第２章）	認知症の人へのケアにおける原則的な考え方，及び基本的なケアの方向性を学ぶ。またその実現のために必要な，認知症の人や症状の理解のしかたについても学ぶ。 **キーワード**：認知症ケア，アセスメント，生活援助	認知症の人へ適切なケアを行うために必要な，ケアの原則と基本的なケアについて，枠組みを把握しましょう。また，具体的な声掛けや配慮等の対応場面を想定しながら考えましょう。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
14	施策／コミュニケーション／地域ケア（教科書２）第３章～第５章）	わが国において現在示されている，認知症ケア施策について理解し，地域における支援の進め方について学ぶ。また支援の基盤となるコミュニケーションやチームケアについても学ぶ。 **キーワード**：施策，地域包括ケア，コミュニケーション，チームケア	わが国において示されている，生活圏域を基盤とした認知症ケアの考え方や具体的な施策，それを進めるチームケア等について理解しましょう。施策についてはテキスト出版時流動的であったものも含まれるため，可能であれば最新の情報を検索してみましょう。
15	権利擁護・リスクマネジメントと家族支援（教科書２）第６章・第７章〔第５章の一部を含む)）	認知症の人の人権擁護について，制度の概要を学ぶとともに，高齢者虐待等の権利侵害の実態，及びリスクマネジメント等の取り組みを理解する。また，認知症の人を介護する家族への支援について学ぶ。 **キーワード**：権利擁護，リスクマネジメント，家族支援	権利侵害の実態やリスクマネジメント考え方を理解した上で，権利擁護を行うための制度について理解していきましょう。家族支援については，家族のおかれている環境や心理に注目した上で，どのような支援が必要かを考えていきましょう。

■レポート課題

1 単位め	高齢期（老年期）と呼ばれる時期がどのようにとらえられるかについて，「生涯発達」および「老化」という観点から，これまで示されてきた考え方や知見を整理した上であなたの考えを述べなさい。
2 単位め	高齢期における，加齢に伴う記憶および知能の変化についてまとめた上で，それらの変化を理解する上で必要な留意点をまとめなさい。
3 単位め	高齢期におけるパーソナリティ（≒人格・性格）の変化と心理的な適応がどのように生じるかについて，変化や適応に影響する具体的な要因を示しながら説明しなさい。 **※スクーリング受講者専用「別レポート」対象課題・web解答可**
4 単位め	認知症の症状について，中核症状と周辺症状（認知症に伴う行動・心理学的症候：BPSD）という観点から整理した上で，症状の出現に影響する要因について具体的に示しなさい。 **※スクーリング受講者専用「別レポート」対象課題・web解答可**

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

レポート課題をまとめるにあたって考えて欲しいことは，単にテキストを見てそれを要約するのではないということです。高齢期に見られるさまざまな心理学的変化が，これまでにいわれてきた通説とどのように異なるのか，あるいはこれまで心理学という学問が高齢者のさまざまな問題をどのように明らかにしてきたのかについて理解を深めていかなければなりません。

以下に各レポート課題のまとめ方についてのアドバイスを行いますが，すべてのレポート課題について，各レポートの前半の部分はさまざまな研究成果などをまとめる形にしてください。後半部分ではそれらのテーマについて自分なりの意見や具体的な例を取り入れながら結論を出していってください。

レポートは，ただ単にテキストや参考文献をまとめただけでは評価の対象にはなりません。また自分な

りの意見を述べただけでも評価の対象にはなりません。必ず課題に対する心理学的な研究成果等を踏まえ，かつ自分なりの意見や具体的な例を取り入れた形でまとめてください。またレポートの最後に参考にした文献も一覧にして載せ，レポート本文中の引用箇所に文献番号を記載してください。

1単位めアドバイス

テキスト『発達と老化の理解』を主に参照してください。同書第1章第1節・第6節，第2章第1節，第4章第1節を中心によく読み，他の文献なども参考にしながら，高齢期という時期がどのように位置づけられるかについてまとめていきます。その際，「生涯発達」および「老化」という観点からテキスト等で紹介されている考え方を整理した上で，自分の考えを主張するようにしてください。

2単位めアドバイス

高齢期における記憶および知能について，テキスト『発達と老化の理解』の第3章第3節・第4節を中心によく読み，加齢に伴う変化がどのように生じているのかについて整理してください。また，それらの変化を理解する上で留意すべき点についてまとめてください。なお，ここでいう留意点とは，単に機能の衰退や減少という側面からのみではない理解のしかたや高齢者への対応に必要な，考慮すべき事項という意味です。

3単位めアドバイス

テキスト『発達と老化の理解』の第3章第5節・第6節，第4章第2節〜第4節を中心によく読み，高齢期におけるパーソナリティ（≒人格・性格）の変化と心理的な適応がどのように生じるかについてまとめていきます。その際，変化や適応に影響しうる要因について，特に高齢期に生じやすい事象を具体的な例を示しながら論述してください。その意味では，影響要因については網羅的である必要はなく，特に重要と思われたもののみ取り上げて論じても構いません。

4単位めアドバイス

テキスト『認知症の理解』の第1章第2節・第3節・第6節を中心によく読み，同書第2章や他の文献なども参考にしながらまとめてください。課題に示したように，単に症状や影響要因を羅列するのではなく，中核症状と周辺症状という区分を理解した上で，症状に影響しうる要因が具体的にどのように作用し，どのように症状があらわれるのかを示してください。なお，かつてそのようにみなされていた，あるいは誤った考え方，という意味で用いる場合以外に，周辺症状について「問題行動」という表現を用いた場合は，評価を減じることがありますので留意してください。

■科目修了試験　評価基準

内容理解・説明ができているかが評価の前提となるが，試験問題によって，具体的な説明もしくは解答者自身の考察のいずれかを求めており，これらが記述されているかどうかが評価の基準となる。

また，レポート25％＋科目修了試験75％の按分で評価を行う。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため，とくに，「総合的な人間理解力」，「根拠に基づく情報発信力」，「心理学の学びを生かした社会貢献力」を身につけてほしい。

■参考図書

1）内田伸子編著『誕生から死までのウェルビーイング　老いと死から人間の発達を考える』金子書房，2006年
2）谷口幸一・佐藤眞一編著『エイジング心理学　老いについての理解と支援』培風館，2007年
3）日本認知症ケア学会編『認知症ケアの基礎知識』ワールドプランニング，2008年
4）加藤伸司著『認知症になるとなぜ「不可解な行動」をとるのか（増補新版）』河出書房新社，2016年
5）下仲順子編『高齢期の心理と臨床心理学』培風館，2007年
6）原千恵子・中島智子著 『老年心理学（心理学の世界　専門編２）』培風館，2012年

■履修上の注意

（高等学校福祉科免許状取得希望の方へ）「老年心理学」を高等学校教諭一種免許状（福祉科）取得に必要な科目として使用するためには，2011年度以降の入学者で，2011年度以降に履修登録をして上記の課題に取り組み，2011年度以降に単位修得をする必要があります。2010年度までに履修登録した「老年心理学」は高等学校教諭一種免許状（福祉）取得に必要な科目として使用できません。

また，2015年度以降の入学者も，高等学校教諭一種免許状（福祉科）取得に必要な科目として使用することはできません。